

おぼらふくし ビレッジだより



発行：おぼらふくしビレッジだより編集委員会
〒470-0564 愛知県豊田市沢田町座内22番地

十月七日、年に一度のビッグイベント、小原寮家族合同行事がありました。多くの家族の方々が集い、交流を深めました。あるフロアでは、バーベキューを行い、家族の方にも積極的に準備や調理に参加していただきました。食事会をしながら、大きな模造紙にシールや千切った折り紙を貼っていき、とても素敵なお絵を完成させるフロアもありました。

家族会合同行事



障がい者支援施設
小原寮



家族の方も参加型の運動会を開き、一緒にデカパン競争や綱引きを行い交流を深めたフロア、喫茶店のような雰囲気、団子作りをするフロアなど、フロアの色をどうしたら生かせるのか、様々な工夫を凝らして家族との交流を図りました。

小原寮は「地域から愛される施設を目指して」と題し、これまで最終曜日に実施してきた地域の交流喫茶である「ふれあい広場☆わんだふる」と、第一土曜日に隣地区で実施している「石畳ふれあい朝市」への参加を中心とした取り組みを発表させていただきました。これからの施設は地域からの理解が不可欠であることを伝えました。残念ながら受賞には至りませんでしたが、今後も小原寮が地域の方々に理解していただけるような関わりを継続していかなくては、職員一同、思いを再確認できた貴重な実践発表会になりました。



福祉実践発表

十月十九日、昭徳会の高齢者、障がい、児童福祉の各分野に、分合同による「福祉実践発表会」が法音寺・山堂で実施されました。

こらむ

社会福祉法人 昭徳会

理事長 鈴木正修

(大乗山法音寺山首)

「生死一如」という言葉があります。生と死は切り離すことのできないものです。

日蓮聖人は「まず臨終の事を習うて後に他事を習うべし」と言っておられます。

「死」と真正面から向き合つてこそ「生」を充実させることができるのです。

誰しも若い頃は、人生は永遠であるような気がします。しかし、ある程度、年を取ると死というものの存在を感じるようになってきます。その時、これまでの人生で感謝すべきことを振り返り、報恩感謝の気持ちを含め、今何をすべきかが大事か、今後どう生きるべきかを考え、行動することによって人生の質が高まっていくと思います。

医師の中村仁一さんが「余命6ヶ月と言われたらエクササイズ」というのを提唱しておられます。「もし、ガンで余命6ヶ月と

言われたらと考え、したいことを書き出し実行するのである。これを、その日が来るまで一定期間毎に繰り返し返すのである。このようなことを実行することにより、最後に目をつぶる瞬間、やり残したことや後悔することは激減していると考えられる。従って、満足の最後を迎えられるのではないかと思うのである。」

「死ぬときに後悔すること25」の著者・大津秀一医師も言っておられます。

「死を前に後悔が一つもない人はいないだろう。けれども、後悔がないようにと普段から考え、行動し、一生懸命生きたらどうだろうか。おそらくそうでない場合と比べて、まったく違う道が人生が、まったく違う道が目前に広がるのではないだろうか。

死期が迫るとき、人は必ず自分が歩んで来た道を振り返る。その道こそが、己の財産そのものであり、その道が納得のいく道であれば、微笑みをもって見納め、その先足を踏み出すことができるだろう。」

一生懸命に生きてきた後悔の少ない人生を歩みたいものです。

障がい支援施設

小原寮

小原ふれあいまつり

例年、小原に暮らす人々が多数集う「小原ふれあいまつり」が今年も十月十三日の日曜日、和やかに行われました。小原福祉ビレッジが開設された当初から、毎年参加、現在は「第二会場」という位置づけで参加させていただいています。

小原安立では『車いすの乗車体験』、小原学園では『シャボン玉作り』、小原寮では『バザー』と『クイズ』をそれぞれ行いました。また、これらをまわる『スタンプラリー』に加えて、施設も一部開放して第一会場との懸け橋となる様に取り組みしました。有り難い事に毎年参加してきた結果として顔なじみや知り合いも増えました。会場にはアンパンマンも応援(笑)に来ており小原福祉ビレッジは当日大賑わいでした。徐々にビレッジが地域の皆様に知っていただくだけ仲良くして下さっていることを実感できる嬉しい日でした。

今回は、数ヶ月前から三施設

の若手職員が中心となつて話し合いながら準備を進めてきたため、当日もビレッジ全体で協力し合い、みんなが一体となつて楽しく参加することができました。地域の皆さま、これからも宜しくお願ひします!



寄贈・ボランティアをいつもありがとうございます

- 荒井町へアーサロン・サカエ
- 田中ふく様 (手作り人形)
- 沢田町 中根敏子様 (お米)
- 東山町 Apan
- ハイブリッジ様 (お菓子)
- 小原町 杉本良一様 (衣類・車イス)
- 沢田町 中山喜久代様(和服)
- 箕田魚子様、中村里美様(お茶指導)
- 中根明美様、松木衣絵様(お茶指導)
- 勝上糸子様 (踊り指導)

特別養護老人ホーム 小原安立

さつき頼り

秋祭り

十一月十日(日)さつき通りにて秋祭りを開催しました。

この日はあいにくの天気でしたが、入居者様の心は晴々としており、朝から祭りの準備を意気揚々と行う姿が見られました。五平もち作りでは、味噌の隠し味『ピーナッツ』の皮むきや、ご飯を棒につける作業などボランティアで参加してくれていた小学生の子供たちと一緒に楽しく行うことができました。入居者様の中で、こっそり味見している方がおり、職員の笑いを誘っていました。

他にもたくさんのお料理を用意し、中でも『はしまき』という入居者様思いの料理は、お好み焼きを薄く焼いて箸に巻いたもので、参加した家族の方も興味深げに食べられ、評判も上々でした。



食後には、紐引きゲームで景品を獲得し、今回の秋祭りが大盛況のうちに終わることができました。この行事を通じて地域との繋がりを深め、さつき通りのチーム力を高めることができました。



上寿

さくらヶ丘の藤井みつ穂様が九月十五日満百歳を迎えられました。

「もう百歳生きられそう」と言葉を取り、職員一同今後ともよりいっそう頑張ろうという気持ちになりました。



ボランテアさんいつもありがとうございます！

- ・つくろいの会様(衣類補修)
- ・近藤様(お茶会)
- ・野上様(ホーミーダンス)
- ・美心会様(お話相手)
- ・おしゃべり仲間様(お話相手)
- ・高山様(行事準備)

高齢者グループホーム 小原安立

小原ふれあい祭り

今年も毎秋恒例のふれあい祭りに出掛けました。

移動動物園ではポニーや羊に恐る恐るさわったり、写真を撮ったりしていました。



昼食後は、和紙のふるさと太鼓や小原学園の子供達の太鼓、大正琴の演奏等出し物を観賞し、演奏が始まると手拍子をしてリズムをとり一緒に歌い、舞台と一緒に盛りに盛り上がる事ができ、楽しいひと時を過ごせました。



また来年もみんなが健康にすごしたいと思えます。